

R RITSUMEIKAN

KYOTO Campus Master Plan 2015 Ver.1

SUMMARY

京都キャンスマスターplan 2015 Ver.1 / 概要版

立命館大学のキャンパス創造

キャンパスは街である

「学生・教職員」が参画する街づくりを進めます

立命館大学では、教育改革とキャンパス整備を総合的に進める「キャンパス創造」に取り組んでおり、学生・教職員の教学・研究・学生生活を支える良好なキャンパス環境・空間の具体化に向けて、キャンパスで生活する学生・教職員が参画する機会を設けながらキャンスマスターplanを策定し、その具体化に向けた検討を進めています。

Beyond Borders

立命館大学のキャンパスマスターplanとは

キャンパスマスターplanは、アカデミックプランを支え、中長期的な視点で良好なキャンパス環境を実現するために、キャンパス計画のビジョンやフレームワークを定めるものであり、具体的なアクションプラン策定の際の指針として運用する。なお、アカデミックプランや経営戦略等の時代に応じた変化に対応する為、キャンパスマスターplanは定期的(5年程度)に更新を行いながら継承されるものである。

京都キャンパスは、主に衣笠キャンパス(西園寺記念館、究論館、アカデマイア立命21、歴史都市防災研究所などを含む)と朱雀キャンパスで構成される。京都キャンパスマスターplan 2015Ver.1では、主に衣笠キャンパスにおける中長期的なキャンパス計画の方向性を示す。

(全キャンパス共通)

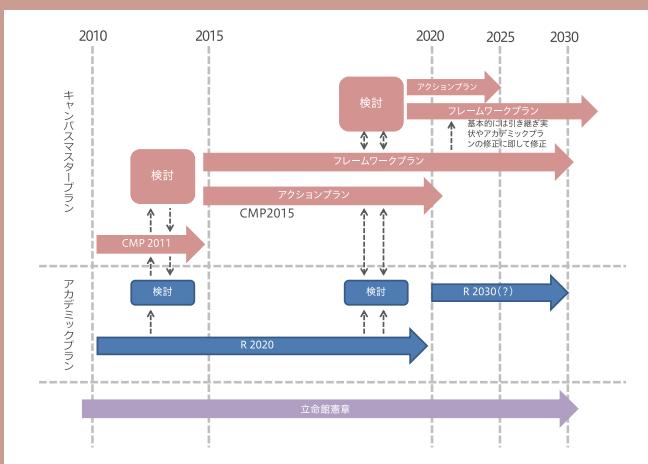
キャンパス整備の空間的コンセプト

1. 多様なコミュニティ形成を支える空間整備
2. 優れた学生・研究者を育成する国際基準の教育・研究・文化・スポーツ環境整備
3. 高いQOL*が支える優れたアメニティや自然環境、エコロジー、防災への配慮
4. 国内外・地域への発信・貢献の場の整備とシステムの構築
5. 歴史・文化的コンテキストを踏まえたキャンパス計画

* Quality of Life の略称。生活の質。

計画の実現に向けた検討と方策

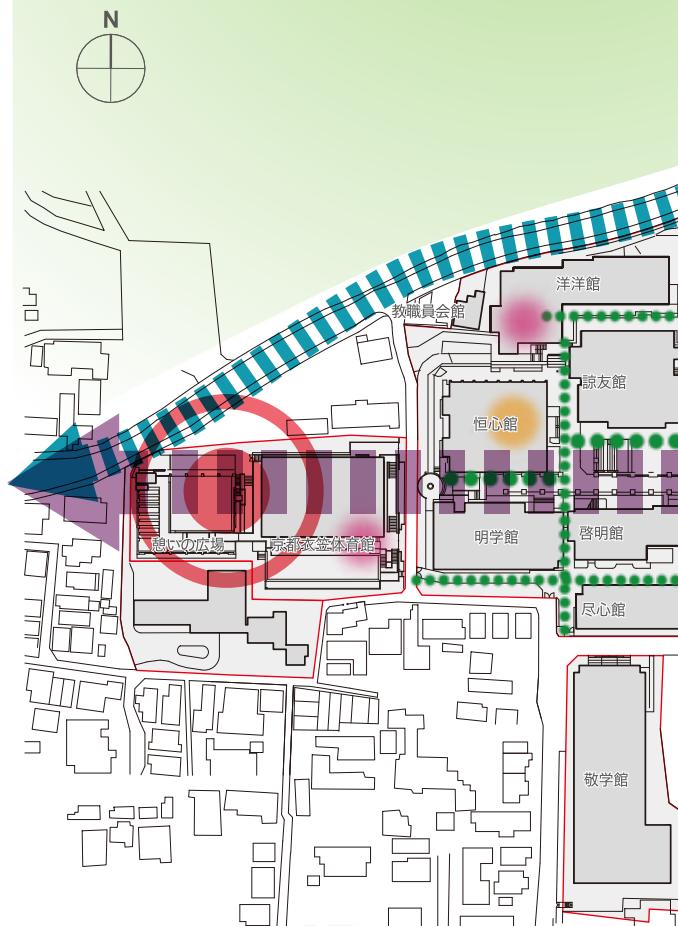
- フレームワークプラン(15~30年スパン)による長期的な計画方針の検討
- アクションプラン(5年サイクル)による計画の実行に向けた短期的な検討
- リーディングプロジェクトの活用による複合的な検討の遂行
- 各方針の整合性を保ちながら計画的かつ総合的な検討
- 関連部局と連携しながら方針の検討を深める
- 現状やニーズの把握



建設事業に求められる時間を考慮アクションプランのベースとなるフレームワークプランは15~30年スパンを見据えつつ、アクションプランと同じ5年サイクルで確認、更新する。



▲ 空から見た衣笠キャンパス(2009年)

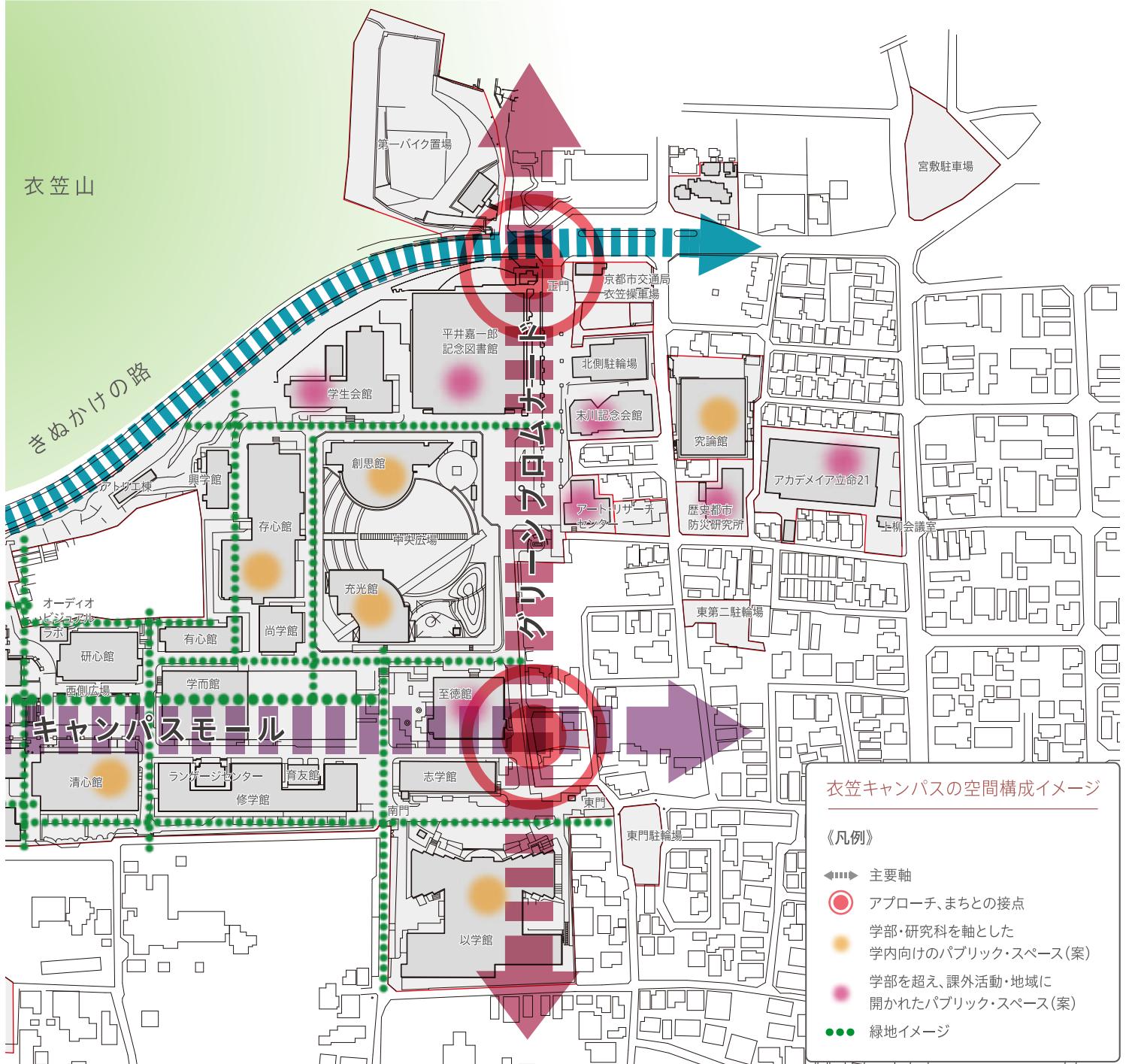


キャンパスイメージ

歴史と文化の都市・京都から世界へ発信する
伝統と創生の人文社系キャンパス

衣笠キャンパスの空間コンセプト

- 1 | 京都・衣笠キャンパス周辺の歴史・文化的コンテキストを踏まえたキャンパス計画
- 2 | キャンパスモールとグリーンプロムナードの主軸ときぬかけの路を活かした基本骨格
- 3 | 個の集合体としての力を發揮し、地域にも開かれたキャンパスづくり



空間コンセプトに基づく基本的な考え方

キャンパスの軸線の創出

- 東西と南北の軸線をつくり、わかりやすいキャンパス空間をつくる。
- 歩行者の主要動線は十分な幅員を確保する。
- 東側の小規模キャンパスとの構内動線をつくる。



屋外空間の整備、各種コモンズ施設などの改善拡充を通じたキャンパスのアメニティの向上

- キャンパスの魅力や活力の向上のため、学生や教職員、地域の人々の心地よい居場所（広場やコモンズ）をキャンパスの軸線上につくる。

良好な景観形成・周辺と連続した緑の整備

- 衣笠山や等持院と連続した樹木の保全と創出をはかる。
- キャンパス内にボリュームある緑をつくる。
- 周辺の住宅地や寺院の環境や景観を守る観点から、キャンパス南側の建物ボリュームを将来的に一部低層とする。同時に衣笠山への眺望や屋根形状、緑化などに配慮する。
- 軸線の結節点でありキャンパスの玄関口である正門を充実整備する。

施設の機能向上と改善

- 既存施設の有効活用を図る。
- 時代に応じたアカデミックプランやニーズに対応しやすい教学・研究施設をつくる。
- キャンパス内人口の過度の偏在を避ける点と南側の将来的な床面積減を視野に入れ、建物床面積を将来的に北側へボリュームシフトすることを検討する。

フレームワークプラン

線的・点的整備課題

2016～2045年までの中・長期的な検討課題。

キャンパスマスターplan(CMP)にて方針を示し、15～30年スパンで検討を継続。

1. ゾーニング・建物配置
2. 交通
3. パブリックスペース
4. キャンパスデザイン
5. 緑地
6. 安全・安心
7. 環境配慮

- フレームワークプラン検討の際に踏まえるべき事項・前提条件
- ▶ アカデミックプラン
 - ▶ キャンパスにおける法的条件
 - ▶ キャンパスの現状把握
 - ▶ ニーズの把握
 - ▶ 評価基準の設定



部門別課題が多層レイヤで構成されているイメージ図

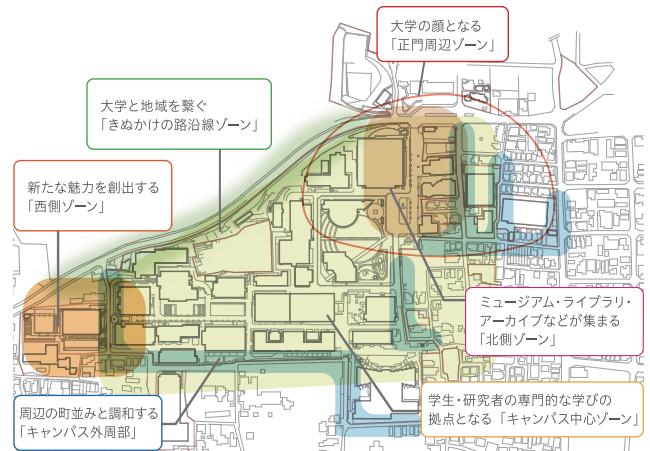
FRAME
WORK
PLAN

1. ゾーニング・建物配置

良好なキャンパス環境を長期的に維持するためには、法規的な条件や建築条件を踏まえ、持続可能なゾーニング・建物配置を検討する必要がある。また、既存の学部・研究科のまとめや機能配置を活かして、全体最適を目指す。

考え方

- キャンパスの特性を活かしたゾーニング計画
- 屋外のパブリックスペースによるキャンパス全体の緩やかな連繋
- 建物ボリュームの再配置を考慮した土地の有効活用
- 持続可能なキャンパスの実現に向けた建物配置計画



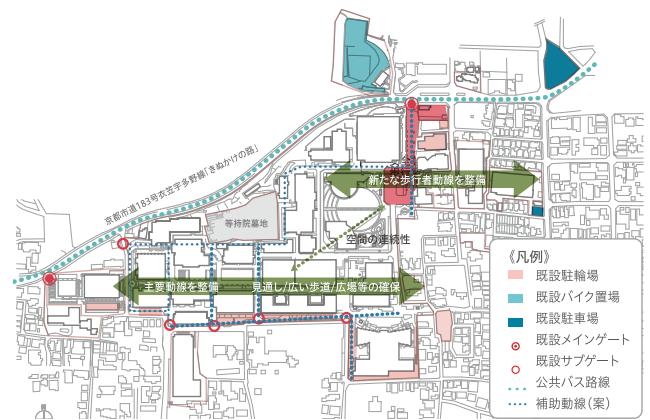
FRAME
WORK
PLAN

2. 交通

既存のキャンパス構造や公共交通を活かしながら、安全・安心で衣笠らしい快適なキャンパスとして検討を進めることが大切である。また、地域や環境にやさしい交通システムについても考慮が必要となる。

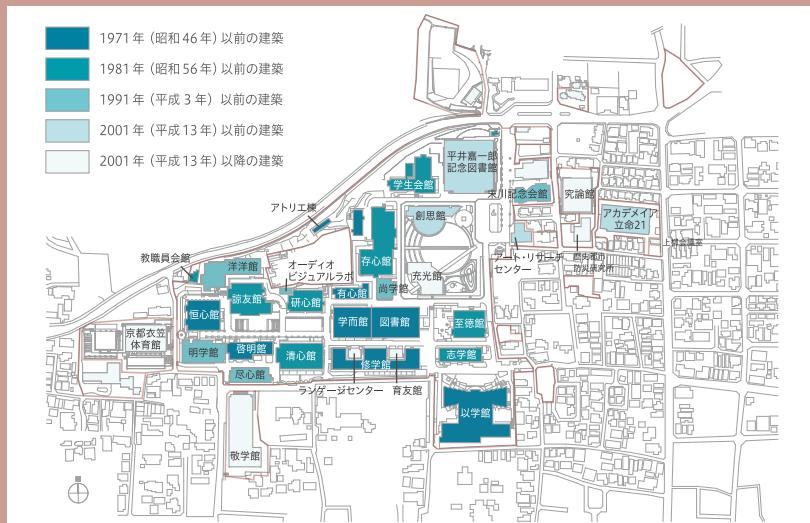
考え方

- キャンパスゲートは、ゲートごとの位置づけに応じた空間づくりを検討する。
- キャンパスモール周辺は、歩行者が安全・安心に移動できる動線を整備する。
- キャンパス外周部や建物間の細い道路は、補助動線として位置づけ整備する。
- 車両の主要なアクセス動線は、キャンパス北側「きぬかけの路」からとする。
- 歩行者、自転車・バイク利用者の主要なアクセス動線は、キャンパス東側、南側からとし、利便性に配慮するとともに、地域住居環境への配慮を行う。



衣笠キャンパスの現状と課題

- 計画的な土地利用、上限に達しつつある建ぺい率緩和への対応
- 高さ15m以下の風致地区規制への対応
- 風致地区や建造物修景地区、眺望景観保全地域指定による、周辺環境との調和、景観への配慮、緑の保全
- 施設・資産の有効活用、機能の再配置
- 施設の老朽化への対応
- キャンパス人口の増減
- 教学・研究・活動環境の充実
- 3キャンパス体制を踏まえた
衣笠キャンパスの魅力の発信
- キャンパスアメニティの向上

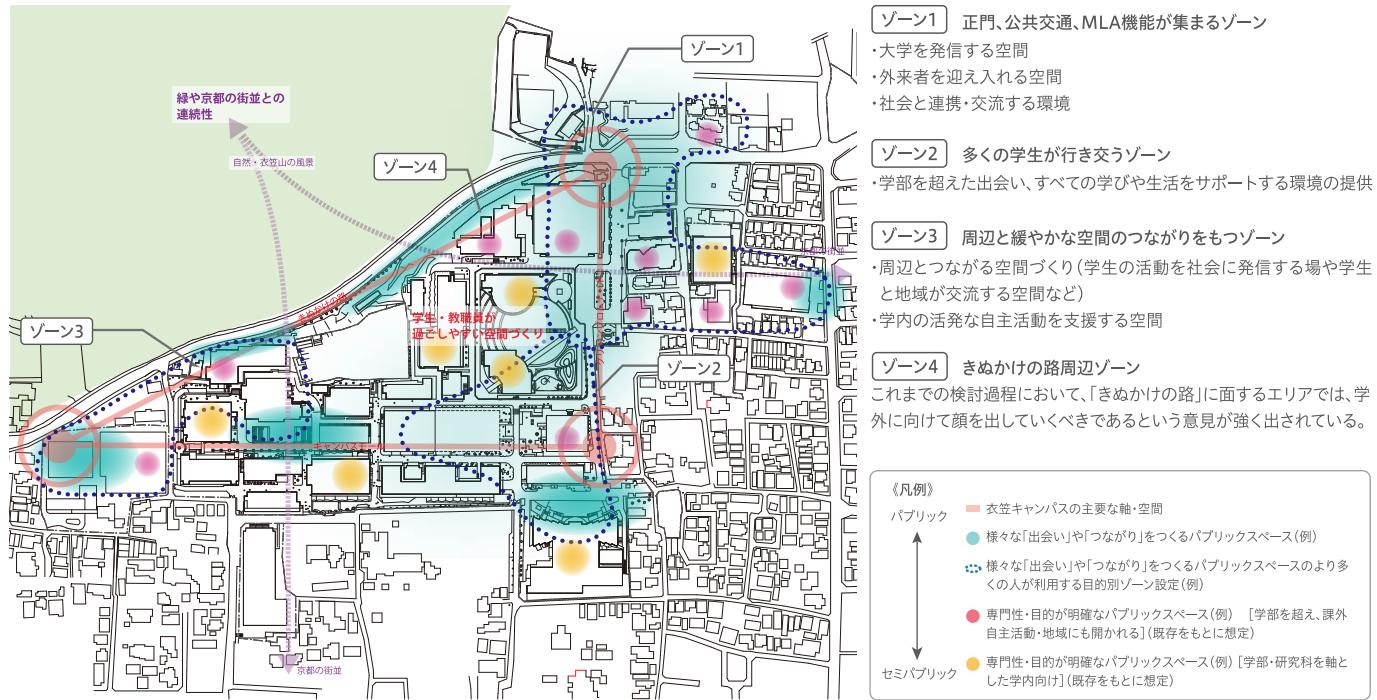


FRAME WORK PLAN 3. パブリックスペース

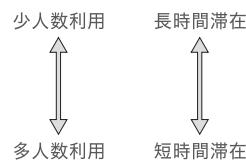
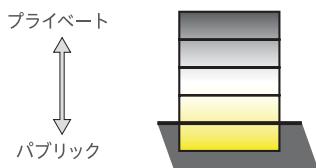
既存施設や環境を最大限に活かし、多くの人が利用することを前提とした、目的別に様々な「出会い」や「つながり」を創出し、衣笠らしい心地よい空間づくりを目指す。

考え方

- キャンパスの骨格を活かしながら様々な「出会い」や「つながり」をつくる



- 空間的な序列化を図る



- 学びや活動・交流、衣笠らしさが見える空間づくり



アクションプラン

個別整備課題

2016～2020年までの短期重点検討課題。
アカデミックプランの検討と関係のある課題。

衣笠キャンパス

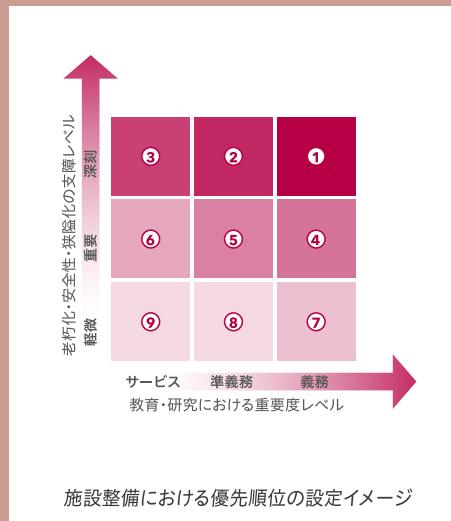
- ・政策科学部大阪いばらきキャンパス展開後の洋洋館の活用計画
- ・既存学部基本施設（存心館、清心館）改修計画
- ・キャンパス内のゆとりの空間創出（キャンパスモールの創出）
- ・学生会館の将来構想
- ・教学施設にかかる将来構想
- ・正門周辺の再整備構想

朱雀キャンパス

- ・経営管理研究科大阪いばらきキャンパス展開後の活用計画

キャンパス整備におけるファシリティマネジメント

良好なキャンパス環境の創造に向けて、継続的にキャンパス整備を進めていくには、経営戦略や管理・運営面とのすり合わせが不可欠であり、学園全体のトータルファシリティマネジメントの検討が不可欠となる。関連各部局との協力のもと、フレームワークプランを踏まえながら検討を進めることが重要であり、具体的なアクションプランに繋げていくための必要予算の算出や評価基準の設定とのすりあわせなども必要となってくる。



施設整備における優先順位の設定イメージ

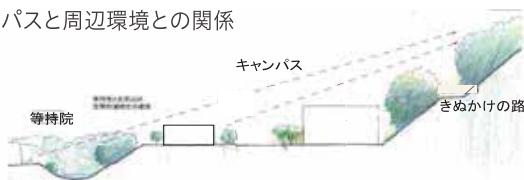
FRAME
WORK
PLAN

4. キャンパスデザイン

キャンパスは大学を印象づける重要な要素の一つである。キャンパスデザイン上の取り組みは、整備効果が利用者に伝わりやすく学生の満足度に直接つながるため、様々な活動と風景をデザインするよう、キャンパス毎のデザインガイドラインを設定することが有効である。衣笠キャンパスは歴史的景観の保全や調和を図ることが、歴史都市京都のキャンパスとして魅力的な環境を維持・向上する上で大切な視点となる。

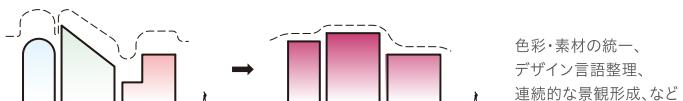
考え方

■ キャンパスと周辺環境との関係



◀ 景観に配慮した
近年の施設整備実績

■ キャンパス内の建築・空間



▶ 既存建物外観デザインと
既存広場空間(西側広場)



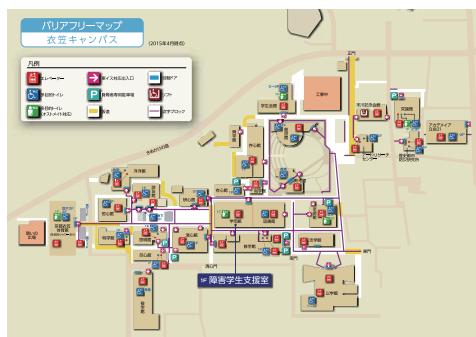
FRAME
WORK
PLAN

6. 安全・安心

大学は不特定多数の人が訪れる場所であり、安全・安心なキャンパスづくりとともに、誰もが使いやすく、快適なキャンパスとして利用できるよう整備することが求められる。

考え方

- ユニバーサルデザインへの配慮
- バリアフリーへの配慮*
- 交通への配慮
- 施設の維持管理、老朽化への対応
- 災害・防災・防犯への配慮



*「立命館大学障害学生支援室」作成のバリアフリーマップ

リーディングプロジェクト

面的整備課題

キャンパス計画（2011）をベースに
2つのエリアを重点検討エリアとして設定。

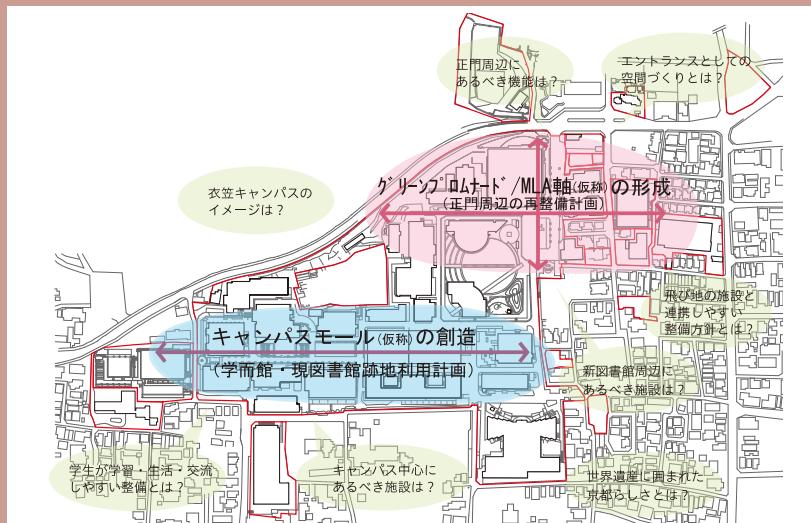
リーディングプロジェクトエリア

- ・ キャンパスモール（仮称）の創造
- ・ グリーンプロムナード/
MLA軸（仮称）の形成

実現に向けての作業

- ▶ 関連条件の整理を行う
- ▶ 専門的視点から具体的な検討を進める
- ▶ 検討案を提示
- ▶ 整備の優先順位を整理・提示

※上記名称は、目指すキャンパス像を検討して行く中で決定する。MLAとは、一般に「MLA連携」としてミュージアム・ライブラリ・アーカイブの文化的情報資源などの連携を示す用語として広く普及・使用されている。リーディングプロジェクト設定においては、大学としてのミュージアム・ライブラリ・アーカイブ機能の円滑な連携について検討する目的で引用したものであり、設定エリアにMLA機能を全て集約することを検討したり、その他の機能を排除するものではない。



FRAME
WORK
PLAN

5. 緑地

衣笠山を背景に望む衣笠キャンパスの特徴を活かして、周辺の緑との調和や空間的な連続性を確保し、四季を感じられる潤いある緑地計画を行い、憩い・集い・賑わうキャンパスづくりを目指す。

考え方

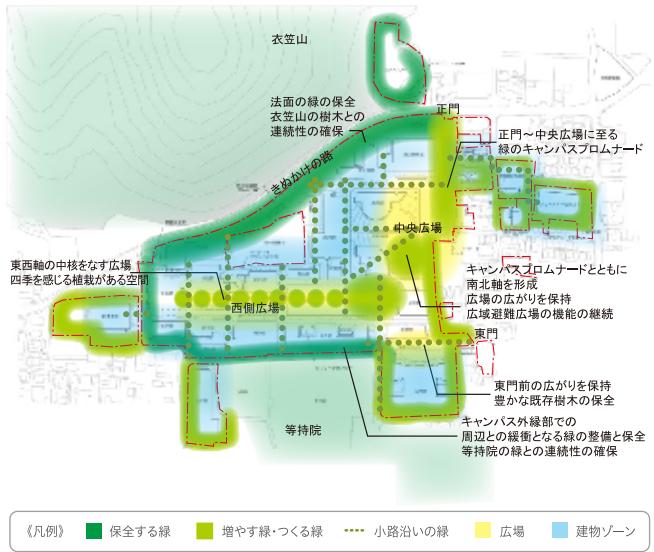
- 衣笠山への緑の連続性の確保
- 京都の植生や気候・環境に適した植栽計画
- 賑わいと潤いある緑地空間の提供
- 適切な維持管理



▲ 緑を守り育てる中央広場



▲ 緑を増やす西側広場



FRAME
WORK
PLAN

7. 環境配慮

持続・循環可能な地球環境の未来のため、人類・地球・自然に配慮し、既存のソフト面とハード面が運動した取り組みを更に促進させ、立命館大学の持続可能な環境配慮型キャンパス（サステイナブルキャンパス）として、取り組むべき課題の整理や目指すべき方針について検討を進める。今後は、サステイナブルキャンパス構築に向けた検討を深める必要がある。

考え方

- 学園全体としての環境問題への取り組みとしては「立命館地球環境委員会」主導で、省エネルギー、CO₂削減、節水、廃棄物対策、環境教育などの活動に取り組んでいる。



立命館学園環境報告書2014 vol.04

近年のキャンパス整備実績 (R2020前半期整備)

2020年を見据えた学園ビジョン R2020に基づき、教育・研究・キャンパスライフの質の向上を目指したキャンパス整備を進めています。



◀ 2015年
研究館



◀ 2012年
京都衣笠体育館



◀ 2012年
第3尚友館



◀ 2015年
インターナショナル
ハウス大将軍



◀ 2015年
平井嘉一郎
記念図書館

学部・研究科と学生数

衣笠キャンパス

| | | | | | |
|--------|-------|---------|-----|-----------|-----|
| 法学部 | 3,814 | 法学研究科 | 55 | 応用人間科学研究科 | 86 |
| 産業社会学部 | 4,037 | 社会学研究科 | 111 | 言語教育情報研究科 | 91 |
| 国際関係学部 | 1,402 | 国際関係研究科 | 116 | 先端総合学術研究科 | 151 |
| 文学部 | 5,037 | 文学研究科 | 207 | | |
| 映像学部 | 703 | 映像研究科 | 10 | | |

学部合計14,993人、研究科合計827人、衣笠キャンパス合計15,820人

朱雀キャンパス

| | | | | | |
|-------|----|-------|-----|-----------|------|
| 公務研究科 | 47 | 法務研究科 | 121 | 朱雀キャンパス合計 | 168人 |
|-------|----|-------|-----|-----------|------|

京都キャンパス合計 15,988 人
(2015年5月1日現在)



(衣笠)



(朱雀)



(衣笠)

キャンパス風景

京都キャンパスの沿革

- 1961 有心館 建工
1963 興學館 建工
1965 経済学部・経営学部を広小路キャンパスから衣笠に移転。以学館、恒心館 建工
1966 修学館、啓明館 建工
1967 図書館、特別実験棟 建工
1969 第一体育館 建工
1970 産業社会学部を広小路キャンパスから衣笠に移転。学而館 建工
1973 学生会館 建工
1974 志學館、教職員会館 建工
1976 訪友館 建工
1977 清心館 建工
1978 文学部、二部全学部を広小路キャンパスから衣笠に移転。
1979 学校法人本部を広小路キャンパスから衣笠に移転。至徳館、研心館 建工
1981 法学部を広小路キャンパスから衣笠に移転(衣笠1拠点化完了)。存心館 建工
1983 末川記念会館 建工
1988 国際関係学部を西園寺記念館に開設。洋洋館、尚学館、オーディオビジュアルラボ 建工
1989 尽心館 建工
1990 明学館 建工
1992 国際平和ミュージアム(アカデメイア立命21)設立。アカデメイア立命21 建工
1994 びわこ・くさつキャンパス(BKC)開設。理工学部がBKCに拡充移転。政策科学部を開設。
1998 経済学部・経営学部をBKCに移転。
1999 アートリサーチセンター 建工
2000 国際関係学部を西園寺記念館から恒心館に移転。
2001 創思館 建工
2002 ランゲージセンター 建工
2004 敬学館 建工
2006 学校法人本部を朱雀キャンパスに移転。歴史都市防災研究センター 建工
2007 映像学部を開設。充光館 建工
2008 育友館 建工
2012 京都衣笠体育館 建工、第3尚友館 建工
2015 大阪いばらきキャンパス(OIC)開設。
政策科学部・政策科学研究科がOICに移転。
経営管理研究科が朱雀キャンパスからOICに移転。
研究館 建工、平井嘉一郎記念図書館 建工

京都キャンパスマスターplan 2015 Ver.1 概要版



発行日 2016年3月
発 行 学校法人立命館
企画・編集 京都キャンパス将来構想検討委員会、
2020年までの京都キャンパスプラン策定部会
学校法人立命館 キャンパス計画室 / 学校法人立命館 総合企画課・管財課

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 学校法人立命館 総合企画課
TEL 075-813-8130 / E-mail :keikaku@st.ritsumei.ac.jp

※本冊子は京都キャンパスマスターplan 2015Ver.1の概要版です。詳細な内容については本編をご覧ください。

